

2 年 団

学年主任： 山地 君代

(1) 今年度の目標

- ① 2年生としての自覚を持ち、規律ある高校生活を送る。
 - ・自主的、自律的生活を心がけ、自分の言動には責任を持つ。
- ② 具体的な進路目標を持ち、主体的な学習をする。
 - ・目標実現に向けた効果的な学習の実践を目指す。
- ③ 特別活動に意欲的に取り組み、充実感と達成感を得る。
 - ・部活動や修学旅行・斯文祭などの学校行事に積極的に参加する。

(2) 主な取り組みの計画

- ① 授業態度、服装、言動など基本的な生活習慣やマナーについて学年全体で取り組む。
 - ・基本的な生活習慣が確立していることが最重要であること自覚させる。
(服装検査・遅刻指導などの生活態度は、教員が共通意識を持ち、粘り強く指導する。)
 - ・試験前の学習計画表や生活時間調査、夏休みの生活時間調査等を有効に活用させ、計画性を身につけさせる。
 - ・面接指導を効果的に実施し、つまずきの発見や悩み等を早期に発見する。
(聞き取りを通じて生徒の内面に寄り添う指導をし、人間的に成長させる。)
 - ・ホームルーム活動を充実させ、級友の様々な考えを知り、自分を顧みる機会を与える。
- ② 学力の2極化が進む中、面接等を最重視し、個に応じた指導をする。
 - ・一日平均4時間の学習時間が取れるよう計画を立て実践させる。(学年+2時間)
 - ・受験情報雑誌を適宜紹介したり、進路の手引きを活用させ、自分に必要な情報を探す力をつけさせる。(オープンキャンパスに積極的に参加させ、進路意識を高めさせる)
 - ・「進路だより」や「学年だより」を効果的に発行し、どの時期に何をすべきかのヒント、アドバイスを与える工夫をする。
 - ・3学期を「3年0学期」と位置付け、受験生としての自覚を持って学習に取り組ませる。
- ③ 学年・クラスの和を大切にし、学校行事に積極的に参加させることによって人間的な成長を促す。
 - ・部活動の中核となって活動させる。(先輩や後輩との人間関係)
 - ・学校行事(運動会、斯文祭、津島杯、特に修学旅行、など)に積極的に参加させる。
 - ・その他の企画(高大連携事業や国際交流会、講演会)などに積極的に参加させる。

(3) 成果

- ・進路HRや学習指導を通して志望を高く持たせる指導をしてきた。夏休みのキャンパスツアーも例年以上に参加者が多く、高い志望を持って積極的に受験に取り組む姿勢を持たせることができた。
- ・生活時間調査を単なる調査に終わらないように、各自が自覚を持ってやるべきことをきちんとやる習慣をつける機会とし、目標の4時間が達成できるように生徒の意識を高めた。全体の平均は3時間であったが、5時間から9時間、学習できた生徒もいた。
- ・教室を学習の場とし、クラスや学年全体で学習に取り組むの雰囲気を作るために、始業前の時間や放課後の時間を教室で学習するよう指導した。
- ・難関大合同合宿にも積極的に参加を希望する生徒が多く、参加した生徒はよい刺激を受け、志望校を上げる生徒もいた。合宿で学んだことが各自の学習に活かされている。また、参加できなかった生徒に対しても良い影響を与えることができている。
- ・服装指導や遅刻指導に日頃から丁寧に取り組むことで、ほとんどの生徒が規範意識を持って学校生活を送ることができている。
- ・教科の課題の提出指導を徹底させたり、毎日学習すべき課題を課すことで、家庭学習を習慣化

するよう指導できた。

(4) 課題と次年度以降の改善策

- 高い志望を持ちながらも、その志望に見合った学習努力が見られない生徒も多い。基礎学力不足や効果的な学習方法が身につけていない生徒も少なくない。個別に学習指導が必要な生徒には、その機会や時間が必要である。
- 成績面では、最上位は安定してきたがそれに続く次の層が薄く、中間層の引き上げが当面の大きな課題である。始業前や放課後、教室で学習する指導を行い、クラス全体、学年全体で学習意欲を高める雰囲気作りに努めたが、まだ、十分効果が上がっていない。今後、3年生に向けて更に指導を続けていきたい。
- 生活指導面において、学年全体で違反者は少ないが、特定の生徒が遅刻や服装違反を繰り返す傾向にある。クラス担任だけでなく学年団全体で指導にあたり、違反を繰り返す生徒には、生徒指導部とも協力して指導をする必要がある。保護者に連絡し、家庭でも本人の自覚ある行動を促してもらいたい。
- 真面目な生徒の中には精神面で繊細な生徒もいて、学校生活に大きなストレスを感じる者もいた。教育相談部やスクールカウンセラーとも相談しながら、学校全体で生徒に関わり、保護者との連絡も密にして、個々の状況に合わせた指導をする必要がある。